

薬草活用 まちおこしを

飛騨でツアー 講義や料理会食



生薬標本室で村上特任教授の説明を聞く参加者＝飛騨市古川町で

飛騨市で豊富な薬草を活用してまちおこしにつなげる「薬草健康体験ツアー」が、同市古川町であり、参加者が薬草の特徴や食べ方などを学んだ。

二年前に市内で全国薬草シンポジウムが開かれたのを機に、有志がNPO法人「薬草で飛騨を元気にする会」を発足。市とツアーを企画した。崇城大薬学部（熊本市）の村上光太郎特任教授による講義のほか、アルプス薬

品工業で生薬標本室の見学があった。西洋ハーブや冬虫夏草など千種類余が並び、参加者が村上特任教授らの解説に耳を傾けた。

薬草を使った料理やスイーツの会食も。町内で採れるイタドリでジャムを作っている参加者の塚本東亜（あづま）さん（モ）は「自然食に関心がある若者も多い。薬草は使い方によって広まるのでは」と話した。

（島将之）